

トップガンジャーナル第20号

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-12-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浜松トップガン事務局 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/9898

トップガンジャーナル



Journal of TopGun

第20号

活動レポート

高校交流会・磐田南高校科学部訪問

平成28年11月5日（土）、磐田南高校科学部との交流会が静岡県立磐田南高等学校で行われ、中学2年生2名、1年生10名の計12名が参加しました。磐田南高校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールの研究開発校になっており、地学部が活発な活動をしています。この訪問プログラムでは、同校地学部の生徒と交流することで、科学への関心を高めることをねらいとしています。

- (1) 磐田南高校地学部の全体説明の後、校舎屋上に設置した天文台の見学をはじめ研究施設の見学をしました



〈全体説明の後、校内見学、研究内容の紹介のようす〉



〈天文台の望遠鏡を操り、太陽黒点を観察〉

- (2) 全体発表に引き続き、小グループに分かれ、各班(天文班・スプライト班・地震気象班・地質班)の研究活動について交流が行われました。



〈各班の交流のようす〉



〈調査で海岸線を空撮するのに使われるドローンのミニ体験のようす〉

地学部との交流では、高校、部活動の説明、校内の研究施設の見学、各班ごとに分かれて部員によるポスターセッションやドローンのミニ操縦体験が行われました。時間をかけて研究をしている様子に皆、驚いていました。また、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)ならではの研究施設に興味津々でした。

磐田南高校は、以前から理系の学校として知られ、理系の部活動が盛んに行われてきました。その中でも地学部は様々な功績を残してきています。そういったこと事もあり、スーパーサイエンスハイスクールに指定され、より活発に活動するようになってからは、海外での発表もあったそうです。



今回の交流では前半、後半に分かれてさらに四つの班にわかれて交流を行いましたが、どの班もとてもしゃべりながら高度な内容で、皆最初は不思議そうに話を聞いていました。しかし、部員の方による分かりやすい説明で、理解でき感心していました。とある生徒は「分かりやすい説明で、とてもよかった。」と話しました。僕が交流を行った地質班・天文班では、ポスターセッション、ガーネットサンド(海岸の砂浜にたまりやすい、やや赤黒い色の天然石。)の観察を行いました。ポスターセッションは地質班では消波ブロックの効果について、天文班では古代の天文観測器「靱型埴輪(ともがたはにわ)」は本当に観測器だったのかということについて、聴きました。ガーネットサンドの観察は、地質班で行い、顕微鏡で観察をしました。「きれい!」、「幻想的!」という感想が出ました。最後に、部員の方は、「難しそうでも、実際に勉強してみると、簡単で楽しい」とおっしゃっていました。身近にある難しそうなことも調べてみると新たな発見があるかもしれません(^◇^)

豊田幸吉

《遠江国分寺》

訪問した磐田南高の学び舎は、良し悪しは別として“レトロ感”たっぷりでした。築40年を超えているのですが、遠江国分寺跡に建っているため新築ができないのだそうです。

遠江国分寺は、奈良時代中期に建立され、東西180m、南北250mの広さがあり、金堂を中心に講堂・中門・回廊そして66mも高さのある七重塔などの配置された、当代国分寺で一二を争う素晴らしいお寺でした。

国分寺は地域の中心を意味します。つまり、その頃の遠州地方の中心は浜松ではなく磐田でした。この史実は戦国時代末期まで続きます。浜松に居た家康も磐田に新たな拠点を作ろうとしたのですが、武田軍が侵攻してきたときに天竜川が背後になってしまうことを恐れて、これを諦め、浜松城を改築、強靱化したとされています。

そのときに磐田が家康の主城になっていたら、遠州地方の中心は、浜松ではなく磐田のままだったかもしれません。とすると、浜松 TOPGUNではなく、磐田 TOPGUN ???

編集部子ども記者より

今回の磐田南高校との交流では普段出来ない体験ができました。中学校を卒業して次に行く学校、高等学校。そこに交流することができたのは、進学目標になった人もいます。磐田南高校地学部の部長さんはここ静岡大学教育学部附属浜松小・中学校の卒業生で、さらにトップガンの最初の受講生だそうで、自分たちも3年後にはあのような姿になれるだろうか?と驚きました。

今後もトップガン子どもジャーナル記者として頑張りたいと思います。

トップガン子どもジャーナル記者
青島嘉遵・豊田幸吉